

平成27年度第2回（心理学・教育学）分野連携グループ合同委員会議事概要
学系別FD/ICT活用研究委員会（心理学）
サイバー・キャンパス・コンソーシアム運営委員会（教育学グループ）

- I. 日時：平成27年11月30日（月土）19：00～21：00
II. 場所：私立大学情報教育協会事務局
III. 出席者：心理学：木村員長、横山委員、大島委員、片受委員
教育学：三尾委員、竹熊委員（スカイプ）舟生委員
事務局 井端事務局長、森下

III. 議事概要

1. 対話集会の目的、計画、進め方などについて

(1) 話題提供や意見交換のテーマなどについて委員の意見

- ・ 知識、技能、態度の確認、定着を目指したアクティブ・ラーニングとして事前・事後学修、eラーニング、反転授業は今後の課題になる。
- ・ 2年生の心理学演習で卒業生にインタビューをさせ、文章表現やインタビューのマナー、倫理的な問題なども学修させる授業で効果をあげている。発表にむけて卒業生からコメントをもらったり、双方向になる取組みを紹介してはどうか。
- ・ 学生に社会を理解させ社会性を持たせる汎用的能力の持たせる訓練にもなる。手紙の書き方、メールの書き方、お礼状の書き方とか。
- ・ 卒業性に自分の学びを振り返っていただき、こんなことが役にたっている、こんなことを勉強しておいてよかったとかが確認でき、学びと社会との結びつきを確認することで学びに反映できる。
- ・ 学生達は生き生きといろいろ調べて取り組んでおり、教員が一方向的に語るのではなく、卒業生の生の声を聴くのは効果があると思う。
- ・ このような産業界、地域社会との連携で知識・技能・態度の活用を目指したアクティブ・ラーニングは効果がある。
- ・ 専門科目は自分の専門、教養や自由科目は大学の教養と考えられ、連携が無いため学生が自分で知識を組み合わせ、自分でヒントを得て意味あるものに構築する力が身につかない。知識の定着・確認、知識の活用・創造に効果的なアクティブ・ラーニングの在り方と組織的に行うための教学マネジメントが大きなテーマである。
- ・ 教学マネジメントとして、どのような支援が望ましいかということ提案し、意見をまとめていくのも必要と思う。
- ・ 成功事例ではなく、もう少し広がりを持つような話題提供、意見交換、本当の教育現場の話、もう少し広げて学生に共通して何かを身に付けてもらいたいという部分が、何か具体的に共通の議論できるような場にしたい。
- ・ グループ学修、グループディスカッションは、グループごとに参加しない、内向きな学生、独自の力学が働くなど本当に難しくファシリテイトが難しい。
- ・ 2年生で専門に入る段階の汎用的、専門的能力の獲得に向けて、社会を先輩といろいろ調べてインタビューする、社会の先輩からもフィードバックをもらう学修を課題も含めて双方向型で提案したらどうか。
- ・ 意見交換のテーマは取りあえず、アクティブのところ2つ、教学で2つくらいをイメージしてみてもどうか。
- ・ 具体的には社会との連携による汎用的能力、知識・技能・態度の活用を目指した産業界と双方向学修、地域社会というのはなかなか難しいかもしれないが表現を変えれば良い。地域社会に入っている卒業生など。

(2) 以上のような意見を踏まえて以下の意見交換のテーマを案とすることにした。

【社会と連携した発想型のアクティブ・ラーニングの話題提供】

① 社会との双方向型授業で汎用的能力と専門能力を結びつける体験型学修の提案

藤山 直樹 氏 (上智大学 総合人間科学部)

横山 恭子 氏 (上智大学 総合人間科学部)

② 汎用的能力と専門的能力の獲得に向けた教育プログラムの提案

舟生 日出男 氏 (創価大学教育学部)

【意見交換】

知識の定着・確認、知識の活用・創造に効果的なアクティブ・ラーニングの在り方及び組織的に推進していくための教学マネジメントの工夫について、下記のテーマで意見交換を行う。

＜アクティブ・ラーニングに関するテーマ＞

- ・知識・技能・態度の活用を目指したアクティブ・ラーニング
(産業界・地域社会との双方向型授業)
- ・アクティブ・ラーニングの評価方法・基準設定

＜教学マネジメントに関するテーマ＞

- ・汎用的能力と専門的能力の獲得に向けた教育プログラムの工夫
- ・ネット上でのファシリテータ活用の方法・体制と養成

(3) 開催日時、開催場所

① 開催日時：平成 27 年 12 月 23 日 (水) 14 : 00～17 : 00

② 開催場所：上智大学 (四谷キャンパス)

2. 今後の予定

次回委員会は12月23日(月)の対話集会とし、13 : 00から事前打合せ会を開催することにした。